

# 事業報告令和2年度 教育事業

## 自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修

令和2年12月5日(土)～6日(日)  
 【対象】ボランティア養成事業受講者  
 【場所】国立信州高遠青少年自然の家

### 1. 趣旨

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、自然体験活動指導者(NEALリーダー)の資格取得に必要な講習会(概論I)を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する。

### 2. 事業の概要

(1)期日 令和2年12月5日(土)～6日(日)

(2)参加者 14人(ボランティア養成事業受講者)

(3)講師(五十音順)

北川 健司氏(株式会社ODSS 代表取締役)

関根 健吾氏(公益財団法人キープ協会 環境教育事業部副部長)

平野 吉直氏(信州大学 理事・副学長)

室井 修一氏(主任講師 国立乗鞍青少年交流の家次長)

(4)日程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12/5 (土)				受付	ガイダンス	自然体験活動の特質 【平野吉直氏】	昼食	自然体験活動の特質 【平野吉直氏】	休憩	自然体験活動の安全管理 【北川健司氏】		夕食	休憩	自然体験活動の技術 【関根健吾氏】	入浴
12/6 (日)			対象者理解 【関根健吾氏】	休憩	自然体験活動の指導 【関根健吾氏】	昼食	ガイダンス	認定試験							

※「青少年教育における体験活動(1.5h)」と「自然体験活動の技術(4h)」はボランティア養成事業にて実施

### 3. 企画運営のポイント

- ・自然体験活動指導者認定制度の仕組みとリーダーの役割を理解し、青少年教育における自然体験活動の意義を理解する。
- ・自然体験活動指導者としての基本的な心構えを理解し、自然体験活動における基本的な技術と安全管理について理解する。

### 4. 参加者の声と主な活動

- ・自然体験活動の意義や課題について再認識し、より深く学ぶことができたと思う。「森の気持ち探しゲーム」は個人的にすごくおもしろかったし、少し工夫すればどの年代でもできそうな内容だったから、機会があれば実践してみたいと思った。(自然体験活動の特質)
- ・「いま、ここ」の地域性を重要視することを学んだ。ワークショップでグループ内の意見交換がたくさんあったため、教育的意義や課題についての理解が深まった。自分の表現の大切さにも気づくことができた。(自然体験活動の特質)
- ・リスクマネジメントをグループで書き出し、様々に分類分けをした際に、リスクを可視化することができ、ヒューマンエラーによるものやそうでないものの区別ができたのが良かった。実際に改善策を出すことで実践にもつながると感じたとともに、リスクマネジメントの重要性に改めて気づくことができた。(自然体験活動の安全管理)

- ・自分たちの活動や自然の中で起こりうるリスクについて、今回ほどしっかり仲間と話し合ったことはなかったから、とてもよい経験になったと思う。今回考えたことを周りにも共有し、ヒヤリハットを少なくしていきたいと思った。（自然体験活動の安全管理）
- ・夜外に出て地面に寝ころびながら星空を観察する体験や、マニュアルもなにも無い状態での火起こし体験などで自然を直に感じることができ素敵な体験であった。（自然体験活動の技術）
- ・すべての活動を通してストーリーがある重要性を改めて感じるとともに、指導者の声掛けや道具の有効性について、とても学びになった。（自然体験活動の技術）
- ・自分たちの言葉で、表現で、どのようにすれば伝えることができるのか。たくさん考えるだけでなく、実際にやってみて気づいたことがたくさんあった。指導にあたって、参加者とコミュニケーションを取ったり、理解していったりといった姿勢が大切だということを知ることができた。（対象者理解・自然体験活動の指導）
- ・テーマを工夫して相手に伝えるという活動を通して、どこで対象者の動機付けを行うか、どのように引きつけるかなどを熟考することができた。また、その後の反省をすることが、毎回大切だということも学んだ。（対象者理解・自然体験活動の指導）

自然体験活動の特質



自然体験活動の特質



自然体験活動の安全管理



自然体験活動の安全管理



自然体験活動の技術



自然体験活動の技術



対象者理解・自然体験活動の指導



対象者理解・自然体験活動の指導



対象者理解・自然体験活動の指導



## 5. 成果と課題

- 講師の先生方の実体験に基づくお話や演習を交えた講習によって、自然体験活動指導者としての専門的な知識と技術を学ぶことができた。
- 演習を含めた講義を入れることで、参加者にとっても体験を踏まえた深い学びになるので、野外での活動を考慮しつつ講義の順番を組み立て、講師の先生方のねらいが連動していくカリキュラムの組み立てに配慮する必要がある。